

市長	副市長	部長	所長	参事	次長	副参事・係長	記録

【所属名：福祉事務所】
【会議名：第2回地域福祉計画策定委員会】

開示
一部開示 (理由: 条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月)

会 議 録

作成日 平成28年11月21日

日	平成28年11月15日	時間	13:30~15:07	場所	市役所 203・204 会議室
件名	(1) 地域福祉計画 (案) について				
出席者	【出席者】 8人 横澤陽子、倉又孝好、齋藤明子、清岡聡美、中村正之、金子栄一、八木和春、石田 薫 【欠席者】 2人 小池洋一、西山 忍 【事務局】 市民部 岩崎部長 福祉事務所 水嶋所長、吉岡次長、陶山係長、塚田係長、山田係長 社会福祉協議会 中村事務局長				
	傍聴者定員	— 人	傍聴者数	0人	

会議要旨

1 開会 (13:30)

事務局 会議次第「3 議題」まで福祉事務所長が進行をつとめる旨を述べる。
委員過半数以上の出席により、委員会が成立したことを報告

2 委員長あいさつ

委員長 最近、用務で地域づくりの会議に出たが、地域での支えあいということについて、色々な角度から非常に多く検討されており、そうった意味からも福祉が地域を作っていくことを改めて考えさせられている。こういったことを念頭におきながら、本日はこの計画案に対する議論をしていただきたい。

3 議題

(1) 地域福祉計画 (案2) について

【事務局】 資料1により、前回の策定委員会におけるご意見、ご提言により変更した部分及び市内策定委員会による訂正・変更点を説明

各章ごとについて、質疑、意見を求めることとした

《第1章及び第2章 主な質疑・意見》

【委員】 4ページに糸魚川市の個別計画との関連図があるが、個別計画とこの地域福祉計画との関連性はどのようになっているのか。

- 【事務局】 3ページの計画の性格と位置づけの中にも記載してあるが、本計画と個別計画との整合と連携を図るという位置づけになっている。
- 【事務局】 地域福祉計画は福祉の個別計画とは並列関係にあるし、総合計画はこれらの計画の上位計画として位置づけている。この関係図だと総合計画が細かいところまで書かれているような印象を与えているようであるが、そうではない。大きい柱の中には総合計画の中に位置づけられていて、個別の計画と連携しているというものである。
- 【委員】 4ページの図だと総合計画との関係性がイメージしにくい。
- 【事務局】 わかりやすいように修正をしたい。
- 【委員】 癒しの送り仮名が「癒し」のものもあるし「癒やし」もある。どちらにするのか、統一した方がよい。
- 【事務局】 どちらも、間違いではないが総務課の法規担当に確認をして統一したい。
- 【委員】 癒しという言葉が一つの意味で使われることがおかしいように感じる。受け取り方によって意味が変わってくるので、癒しについての定義づけをした方がよいのではないか。
- 【委員】 4ページと5ページの図の整合性が取れていない。4ページの図だと個別計画を全て含んだのが地域福祉計画であるというイメージを受ける。
- 【事務局】 前にも言ったが、各個別計画と福祉計画は並列で連携しているというイメージ図を考えたい。

《第3章 主な質疑・意見》

- 【委員】 16ページの計画期間中の重点項目についてはどうするのか。
- 【事務局】 できれば、第1期、第2期も重点項目があったことから、第3期についてはどうするかここで決めてほしい。
- 【委員】 第2期計画策定委員会では別の立場で策定委員を務めていたが、第2期の計画策定委員会では(1)の④の「癒しの心、結いの絆を共有できる地域づくりの推進」が重点項目になったが、あまり意味がわからなかった。
- 【委員】 重点項目にして、どういう取り組みをするのか。この中の項目全てが大切であるし、特にこれを重点項目として定める必要はないのではないか。
- 【委員】 同感である。市でも各地域において、地域づくり計画等を作成してもらうことで地域づくりを推進してきていることは、認めるし第2期計画中はそれでよかった。
- 【委員】 人材育成の中でボランティアの育成という部分についてはかなり市民の中に浸透してきていると感じている。
- 【委員】 地域の役員や民生委員などは任期があり、人が代わるとそこで人材の育成が途切れてしまう。ボランティアでも中長期的な人材育成をしてほしい。
- 【委員】 重点事項の選択については、順位付けになってしまうような気がする。先ほど委員からも意見があったが、この中の項目は全て大事であるので、特に重点項目は決めなくてよいのではないか。
- 【委員長】 重点項目は特に指定しないこととしてよいか。
- 【委員】 指定しなくてよい。
- 【事務局】 了解した。これを削除する。

- 【委員】 この計画そのものもどこまでやるのかが問題である。
- 【事務局】 例えば、災害時の要支援者の避難についてもそうであるが、地域の協力が重要になってくる。行政の力には限界があると思う。地域差もあると思うが、地域と行政が一体となって計画を推進していかなくてはならないと思う。
- 【委員】 地域は高齢化していて体力がなくなっているのが難しい面もある。
- 【委員】 地域によって課題が違うと思うが、支えあいや助けあいの仕組みづくりが非常に重要になっていくと思う。
- 【委員】 基本理念の中に地域と行政との連携という文言を追加してほしい。具体的には15ページ本文の中段の～まちづくりが必要です。の後に「そのためには行政と地域が連携しあって、課題の解決に向けて取り組んでいくことが大切です。」という一文を追加してほしい。
- 【事務局】 内容については、非常によいと思う。文言などを所内で検討したい。
- 【委員】 19ページの「結いの絆」についてはこのままの掲載でよいのか。
- 【事務局】 結いという言葉自体最近はあまり使われていない。
- 【委員】 今の時代はやはりノーマライゼーションの精神が大事であって、地域の人たちが助け合っていくということが大事なのではないか。結いの精神もわかるが、今は地域の絆とした方がよいのではないか。
- 【事務局】 結いという言葉に閉鎖的な意味合いがあるとすれば、修正した方がよいと思うし、誤解を受けるようなことであれば、削除した方がよいが調べてみる。
- 【委員】 結いといっても、今の若い人がわからないようなものであれば、地域の絆という言葉に修正した方がわかりやすくよいと思う。
- 【委員】 もう一度結いの絆の意味を調べてほしい。
- 【事務局】 了解した。
- 【委員】 確認であるが、学童保育所という言葉が出てくるが、学童保育はよく聞くが、学童保育所という施設があるのか。
- 【事務局】 能生地域では保育園がその機能を果たしているということから、学童保育所等と記載した。
- 【委員】 26ページに民生委員児童委員という言葉が出てくるが、民生委員・児童委員ではないのか。
- 【事務局】 庁内の策定委員会の中でも話があったが、中点はいらないが、もう一度確認する。
- 【委員】 障害者の「害」の字をひらがな表記にしてほしい。
- 【事務局】 市として、この表記の方法についてどうするかということが明確に決まっていない。障害者の計画の中でも漢字表記で使っているが、この計画は平成29年度に見直しを予定しているが、その時に皆様からご意見を伺う中で今後の方向性を出したいと考えている。今回はこのままの表記でいきたい。
- 【委員】 障害のある子がひすいの里総合学校の高等部を卒業した後に市内で暮らせるように施設を作ってほしいことと、親亡き後に入所できる施設の確保をしてほしい。
- 【事務局】 障害を持つ親御さんの共通の課題であるということは十分認識しているし、施設もそうであるが、グループホームなどの建設にも力を入れたいし、これについては、地域の皆さんと一緒に考えていきたいと考えている。

【委員】 「癒しの心」の意味が理解できない。適切な表現を検討してほしい。

【事務局】 第3章に癒しという言葉が多く出てくるので、これを修正するとなると、他への影響が大きくなる。先ほど委員からも発言があったように癒しという言葉には使う側と受け手側の方でとる意味が違ってくると思われるので、定義づけを部内で考えていきたい。

(2) その他

次回は平成29年2月14日(火)午後1時30分からの開催とする。

4 閉会

(15時7分終了)